

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・島海純一
授業の回数 1回	時間数（単位数） 5時間	時期 4月、10月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい <u>人間の尊厳と自立について理解を深める</u>				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）				
授業終了時の達成課題 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解させる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	人間の尊厳と自立	人間の尊厳の保持とは、自立・自律についてどのような状態を指すのか、また尊厳について考えさせる 尊厳を支えるノーマライゼーションとしてバリアフリーやユニバーサルデザイン、またその成り立ちについて理解させる 利用者のプライバシーの保護について守秘義務及び生活をさらけ出すことの羞恥等について理解させる 権利擁護等として人権、アドボカシー、エンパワメント、自己決定権と高齢者虐待について理解させる 介護の基本的な理念について利用者本位、自立支援・自己決定の視点から理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 1巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題10問のうち正答数7問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解 I		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 5時間	時期 4月、10月		必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護保険制度の理解</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	介護保険制度	<p>介護保険制度の体系と目的について創設までの経緯、制度の意義、制度の概要、保険給付等について理解させる</p> <p>介護保険制度のサービスの種類と内容について、介護給付・予防給付の別に理解を深める</p> <p>介護保険サービスの利用までの流れについて申請からサービスの利用までの流れを理解させる</p> <p>介護保険制度の利用者負担第一号保険者・第二号保険者・国庫・都道府県・市町村の各々の負担を理解させる</p> <p>介護保険制度における専門職の役割について介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士等関連職種を理解させる</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 1巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題10問のうち正答数7問以上で合格とする</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 30時間	時期 4月、10月		必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>生活と福祉</u></p> <p><u>社会保障制度</u></p> <p><u>障害者総合支援法</u></p> <p><u>介護実践に関連する諸制度</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</p> <p>社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</p> <p>障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	生活と福祉	家族との生活と福祉について家族構成の変容、家族の機能、老老・独居高齢者等の家族形態等について理解させる 地域での生活と福祉について、都市部・農山村部、地域社会の構造と福祉について理解を深める 社会との関連と福祉について、地域支援事業、地域包括ケアシステムを中心としたケアの総枠を理解させる	
2	4月、10月	社会保障制度	社会保障制度の発達についてその意義・目的・範囲、世界の歴史、我が国の歴史について理解させる 社会保障制度の体系と財源について医療・年金・児童福祉・生活保護・地域福祉・居宅施策等について理解させる	
3	4月、10月	障害者総合支援法	障害者総合支援法の目的について障害者福祉施策の歴史、障害者基本法、自立支援法、総合支援法に沿って理解させる 障害者総合支援法の体系について、身体障害者福祉、知的障害者福祉、精神障害者福祉、難病者について理解させる 障害者総合支援法におけるサービスの種類と内容について、自立支援給付、介護給付、訓練等給付等の理解を深める 障害者総合支援法の利用までの流れについて介護給付費の申請から支給量の決定、不服の申立まで理解させる 障害者総合支援法の利用者負担について介護給付費、自立支援医療費の理解を深める 障害者総合支援法における専門職の役割等について、身体障害者福祉司、身体障害者相談員等について理解させる 障害者総合支援法の具体的・客観的内容の助言方法について、都道府県・市町村、福祉事務所等の役割を理解させる	

4	4月、10月	介護実践に関連する諸制度	成年後見制度について目的や保佐・補助の役割や職務の権限等について理解させる 生活保護制度について、その理念・目的・基本原理と原則、保護の種類と方法等について理解させる 保健医療サービス等について、地域医療サービス、地域保健サービス、地域福祉サービス等について理解させる
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 1巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題50問のうち正答数35問以上で合格とする

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護の基本Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 10時間	時期 4月、10月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい <u>介護福祉士制度</u> <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u> <u>介護福祉士の倫理</u>				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)				
授業終了時の達成課題 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 個別ケア、ICF (国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	介護福祉士制度	介護福祉士制度について、社会福祉士・介護福祉士法設立の経緯からその改正内容、資格取得のルート等を理解させる	
2	4月、10月	尊厳の保持と自立に向けた介護	介護福祉士制度の定義について、介護福祉士の義務、介護人材の将来見通し、キャリアパスの全体像等について理解させる 介護福祉士制度の業務範囲、業務内容について、認定介護福祉士、喀痰吸引・経管栄養等の範囲を理解させる 尊厳の保持と自立に向けた介護展開のプロセスについて、尊厳と自立支援、信頼関係構築のための基本的態度等について理解させる 個別ケアの考えについて、共感的理解とコミュニケーションや相談援助、カウンセリングマインド等について理解させる ICFについてケアマネジメント、アセスメントの要である事を理解させる	
3	4月、10月	介護福祉士の倫理	リハビリテーションについて、その歴史、理念、定義、目的、領域、機能回復訓練、社会復帰等の理解を深める 介護福祉士の職業倫理について、介護サービスの公共性や専門職としての倫理を理解させる 身体拘束の禁止について、倫理と規範、抑制や身体拘束の弊害等について理解させる 虐待防止について、高齢者虐待防止法に基づき、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト等虐待の定義を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 2巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題20問のうち正答数14問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数（単位数） 20時間	時期 4月、10月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u></p> <p><u>介護実践における連携</u></p> <p><u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u></p> <p><u>介護福祉士の安全</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</p> <p>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。</p> <p>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。</p> <p>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	介護を必要とする人の生活の理解と支援	<p>介護を必要とする高齢者・障害者の生活の理解についてパーソナリティを中心に心理に配慮する意味を理解させる</p> <p>介護を必要とする高齢者・障害者のニーズについて、老化、障害が及ぼす身体的・心理的ニーズについて理解させる</p> <p>介護を必要とする高齢者・障害者の支援の課題について加齢・障害・疾病・日常生活の別に理解させる</p>	
2	4月、10月	介護実践における連携	<p>チームアプローチについてその形態、その実際、チームケアとそのメンバーについて理解させる</p> <p>チームアプローチにおける他職種の役割について、医療・看護・リハビリテーション・介護支援専門員等の役割を理解させる</p> <p>チームアプローチにおける関係機関の役割について、福祉事務所・地域包括支援センター等の役割を理解させる</p> <p>チームアプローチにおける多職種との連携について、医師・看護職・福祉事務所等との連携について理解させる</p>	
3	4月、10月	介護における安全の確保とリスクマネジメント	<p>リスクについて、介護リスク、要支援・要介護、介護予防、生活上のリスク、サービス提供の在り方について理解させる</p> <p>安全確保について、安全管理体制づくり、リスクマネジメント、リスクの種類、その対応について理解させる</p> <p>事故防止について、介護事故の要因、介護事故の実態、具体的な事故予防等について理解させる</p> <p>事故防止について、予防マニュアルの整備、介護事故に対する責任、介護事故の状況等について理解させる</p> <p>感染管理について感染症、感染源、感染ルート、感染予防、洗浄・消毒・滅菌等について理解させる</p> <p>感染管理について、内因性感染、MRSA、かぜ、インフルエンザ、結核、疥癬等病原菌の種類を理解させる</p>	

4	4月、10月	介護福祉士の安全	介護者の心身の健康管理について感染源にならないための健康管理、ストレスマネジメントについて理解させる 労働安全対策（重量物の取り扱い）について、通知に基づき持ち上げない介護の徹底を理解させる
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 2巻			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい <u>介護におけるコミュニケーション技術</u> <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）				
授業終了時の達成課題 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	介護におけるコミュニケーション技術	利用者とのコミュニケーションについて、バーバル・ノンバーバル、アセスメント、ストローク等について理解させる 家族とのコミュニケーションについて、家族の理解、家族のストレス、家族への相互理解等について理解を深める 相談援助技術について、ソーシャルワークの機能と基本原則、ケースワーク、ケアマネジメント等について理解させる	
2	5月、11月	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	コミュニケーションとニーズについて、利用者・家族、利用者と家族のニーズの統合等を理解させる コミュニケーションと意欲について、利用者に変革をもたらすコミュニケーション等について理解させる 利用者の感覚・運動・認知に応じたコミュニケーションについて、知的障害・精神障害・言語障害等について理解させる	
3	5月、11月	介護におけるチームのコミュニケーション	チームにおけるコミュニケーションについて、ケアマネジメントチーム、同職種・多職種、施設内等を例に理解させる 情報の共有化について、報告と記録、情報把握と観察、変化の記録、共有化の手段等について理解させる 記録について、その目的と意義、種類、書き方、記録の保管と管理等について理解させる 報告（相談）について、申し送り、連絡、相談等の方法と手段を理解させる 会議について、サービス担当者会議（ケアカンファレンス）事例検討会等について理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 3巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>生活支援とICF</u></p> <p><u>ボディメカニクスの活用</u></p> <p><u>介護技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)</u></p> <p><u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u></p>				
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)</p>				
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</p> <p>ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>介護技術の基本 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等) を修得している。</p> <p>居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	生活支援とICF	生活支援におけるICFの意義について、介護の意義と目的、定義と業務、介護実践におけるICF等について理解させる	
2	5月、11月	ボディメカニクスの活用	生活支援におけるICFの役割について、ICFを取り入れた生活支援技術援助、アセスメントについて理解させる	
3	5月、11月	介護の基本技術と福祉用具の活用	ボディメカニクスの原則について、ボディメカニクスの7原則、介護者の姿勢と安定について理解させる	
			ボディメカニクスを活用した介護について、ボディメカニクス技術の必要性、姿勢・運動を支える身体等について理解させる	
			ボディメカニクスの実践事例について、介護におけるボディメカニクスの応用等について理解させる	
			移動・移乗介助の基本について、移動・移乗の持つ意味、介助のポイント、外出の持つ意味等を理解させる	
			移動・移乗介助の基本と関連する福祉用具について、リフト・簡易スロープ・トランスファーボード等について理解させる	
			食事介助の基本について、食事の持つ意味・食事の持つ身体的側面・精神的側面、栄養等について理解させる	
			食事介助の基本と関連する福祉用具について、ピンセットタイプ・スプーン・ストロー等関連する用具を理解させる	
			入浴介助の基本について、入浴の持つ意味、その身体的側面・肉体的側面、皮膚・筋肉の緊張緩和等について理解させる	
			入浴介助の基本と関連する福祉用具について、浴槽内手すり、バスボード、入浴リフト等について理解させる	

			<p>排泄介助の基本について、排泄の持つ身体的・精神的役割、おむつの使用と自立支援等について理解させる</p> <p>排泄介助の基本と関連する福祉用具について、ポータブルトイレ、差し込み便器、収尿器等用具を理解させる</p> <p>清潔保持の基本について、清拭の持つ身体的・精神的役割、鎮静効果・爽快感等について理解させる</p> <p>衣服着脱介助の基本について、衣類の持つ身体的・精神的役割、自己表現、保温等について理解させる</p> <p>整容介助の基本について、整容の持つ身体的・精神的役割、爽快感、医療への抵触について理解させる</p> <p>口腔ケアの基本について、その身体的・精神的意味と役割、食事のおいしさ等について理解させる</p> <p>その他福祉用具について、電動ベッド、補聴器等各種福祉用具について理解させる</p> <p>家事援助技術の基本について、調理・洗濯・掃除・被服補修・買い物支援等を理解させる</p> <p>居住環境の基本について、人とすまい、照明・防音・採光・空調等について理解させる</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 30時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備 移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)				
授業終了時の達成課題 以下について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。 移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	利用者の心身の状況に合わせた介護 (福祉用具の活用・環境整備)	移動を行う際の環境整備について、移動先までのルート確認、トイレの場所、車いす使用可能の可否等を理解させる	
2	5月、11月	移動の介護	利用者の心身に合わせた移動介助について、状態像の確認、バイタルチェック、天候、杖、歩行器等を理解させる 福祉用具を活用した移動、移動を行う際の留意点について、杖、歩行器、車いす、スライディングシート等を理解させる	
3	5月、11月	移乗の介護	移乗を行う際の環境整備について、身体の動き、関節の動き、スペース、腰痛予防等について理解させる 利用者の心身に合わせた移乗介助について、自立支援、ベッドから車いす・ポータブルトイレへの移乗等を理解させる 福祉用具を活用した移乗、移乗を行う際の留意点について、スライディングボード、リフト等について理解させる	
4	5月、11月	食事の介護	食事を行う際の環境整備について、姿勢と動作、咀嚼機能・嚥下機能の確認等を理解させる 利用者の心身に合わせた食事介助について、臥位・座位・片麻痺・視覚障害等について理解させる 福祉用具を活用した食事、食事を行う際の留意点について、自助具を活用した食事の方法を理解させる	
5	5月、11月	入浴の介護	入浴を行う際の環境整備について、片麻痺・下半身麻痺など障害に応じた入浴方法を理解させる 利用者の心身に合わせた入浴介助について、浴槽での入浴、シャワー浴、バイタルを考慮した入浴方法を理解させる 福祉用具を活用した入浴、入浴を行う際の留意点について、在宅・施設、リフト・機械浴等を理解させる	
6	5月、11月	清潔の介護	清拭を行う際の環境整備について、羞恥に配慮した、ベッド上での、バイタルを考慮した清拭の方法を理解させる 利用者の心身に合わせた清拭介助について、全身清拭の手順、陰部洗浄等を理解させる	

7	5月、11月	排泄の介護	<p>清拭の介助の留意点について、お湯の温度、バイタルの変化、利用者説明等について理解させる</p> <p>排泄を行う際の環境整備について、トイレまでの距離、動線、手すり、ドアの形状等について理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた排泄介助について、アセスメント、プライバシー、一人でできる事等を理解させる</p> <p>福祉用具を活用した排泄、排泄を行う際の留意点について、ポータブルトイレ、尿器等を理解させる</p>
8	5月、11月	着脱の介護	<p>衣服の着脱を行う際の環境整備について、季節・気候、TPOにあわせた素材等を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた着脱介助、着脱の留意点について、脱健着患の基本原則を理解させる</p>
9	5月、11月	整容の介護	<p>整容を行う際の環境整備について、目・鼻・耳、爪等医療的処置が必要な状態を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた整容介助について、目・鼻・耳、ひげ、爪、化粧等について理解させる</p> <p>整容を行う上での留意点について、医療行為への抵触、血行促進効果と副作用等を理解させる</p>
10	5月、11月	口腔ケアの介護	<p>口腔ケアを行う際の環境整備について、洗面台までの移動、麻痺側、残存歯、義歯等について理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた口腔ケアについて、口腔体操、歯磨き、うがい、義歯の手入れ等を理解させる</p> <p>口腔ケアを行う際の留意点について、口腔の機能、口腔疾患、感染症予防等を理解させる</p>
11	5月、11月	睡眠の介護	<p>睡眠に伴う環境整備について、寝具の整え方、睡眠障害の種類、衛生管理等を理解させる</p> <p>利用者の心身に合わせた睡眠の介助、睡眠の留意点について、入眠・中途・レム・ノンレム等を理解させる</p>
12	5月、11月	終末期の介護	<p>ターミナルケアについて看取りの意義・目的、生物学的・法的な死、グリーフケア等を理解させる</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 4巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題50問のうち正答数35問以上で合格とする</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 4月、10月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい <u>介護過程の基礎知識</u> <u>介護過程の展開</u> <u>介護過程とチームアプローチ</u>				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)				
授業終了時の達成課題 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種役割を理解している。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	4月、10月	介護過程の基礎知識	介護過程の目的について、ケアマネジメントとの違い、介護過程のプロセス、個別性等を理解させる	
2	4月、10月	介護過程の展開	介護過程の意義について、介護過程の意義、自立支援、介護職の専門性等を理解させる	
3	4月、10月	介護過程とチームアプローチ	介護過程の展開について、信頼関係の構築、自己決定権の尊重、アセスメント、モニタリング等について理解させる	
			目標に沿った計画的な介護について、ニーズ、欲求の段階、ケアマネジメント、ICFの視点等を理解させる	
			介護過程におけるチームの職種と役割について、ケアチームのメンバー、メンバーの役割等を理解させる	
			介護過程におけるチーム内での情報共有について、観察と記録、伝達・報告、ケアカンファレンス等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 5巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一	
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 25時間	時期 6月、12月		必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>介護過程の展開の実際</u></p> <p>利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、住居の場、家族の状況等）について事例を設定し介護過程を展開させる。</p> <p><u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</u></p>					
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p>					
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行う事ができる。</p>					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法		
1	6月、12月	介護過程の実際	利用者情報の収集について、インタビュー時、情報源、情報収集の手段、本人から、多角的な情報収集等を理解させる アセスメントについて、ニーズの把握（ADL・IADL等）、解決すべき課題、目標、アセスメントシート等を理解させる 訪問介護計画の作成について、アセスメント結果を過不足無く、長期・短期目標、多職種連携等を理解させる 計画に沿った介護の提供方法について、利用者とのコミュニケーション、安全確保、介護計画の妥当性等を理解させる モニタリングについて、実施状況、利用者の状態変化、利用者の満足度、目標の達成等を理解させる 介護計画の見直しについて、評価、評価の視点・目的、短期・長期目標の達成深度と目安等を理解させる		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 5巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする</p>		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 スクーリング学習 (講義)		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 8回	時間数 (単位数) 45時間 (8日間)	時期	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい				
①介護過程の展開 多様な事例を展開し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価				
②介護技術の評価 介護技術の原理原則の修得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価				
授業内容 授業の目的及びテキストに沿った講義・演習・評価を行う				
授業終了時の達成課題 実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護 (アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等) を提供できる。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行う事ができる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1～15	6月、12月	介護過程の展開Ⅰ	アイスブレイク、介護過程の展開 (アセスメント・計画の作成) の実践と評価について介護過程Ⅰ・Ⅱの復習と事例に基づいた展開の実習を行う	
16～22	6月、12月	介護技術の基本	介護過程の展開 (実施) に係る基本的な手技の評価として、生活支援技術の単体的な手技の技術を実習・評価する	
23～32	7月、1月	介護技術の応用	上記「介護技術の基本」を発展させ複合的な介護の技術の評価として、事例の一日の生活から一連の生活動作を切り出し、そのケアを行わせ評価を図る	
33	7月、1月	介護技術の評価	介護過程の展開 (実施) に係る介護技術の具体的な評価方法として、手技及び介護福祉士養成実技のような実技評価を行う	
34～36	7月、1月	介護過程の展開Ⅱ	介護過程の展開 (モニタリング・計画の見直し) の実践と評価として、事例を元にモニタリング・計画の見直しを行い、その達成深度及び内容について評価を行う	
37～39	8月、2月	安全確保・事故防止、家族・職種間の連携	介護事故を予防するための観点を踏まえた「訪問介護計画書」等の作成方法について、ヒヤリハット・アクシデントの報告、リスクマネジメント等報告様式に記載させ理解を深める	
40～45	8月、2月	介護過程の展開Ⅱ	介護過程の展開 (モニタリング・計画の見直し) の実践と評価として、アセスメント・計画時の短期・長期目標の評価を行い、その評価結果の可否を評価する	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 5巻			[単位認定の方法及び基準] 出席時間数が養成施設指定規則に定める時間数の3分の2を満たすこと。 (介護技術の評価) 各介助動作を実施してもらい「介護キャリア段位制度のチェックシートを用いた評価票」の7割以上の項目にチェックマークがついた者を合格とする (最終日試験) 選択式問題100問のうち正答数70問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 10時間	時期 5月、11月		必修・選択 必修
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u></p> <p><u>老化に伴う身体の変化と日常生活への影響</u></p>				
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)</p>				
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p> <p>老化に伴う身体的な機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	老化に伴う心の変化と日常生活	老化に伴う心理的な変化として、感情・記憶・知能・性格・注意力・反応等を理解させる	
2	5月、11月	老化に伴う身体の変化と日常生活	老化に伴う身体的な変化として、知覚・身体的症状・疾病、ライフステージ、生活機能の低下等を理解させる	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 6巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p style="text-align: center;">(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題20問のうち正答数14問以上で合格とする</p>	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>人間の成長・発達</u></p> <p><u>老年期の発達・成熟と心理</u></p> <p><u>高齢者に多い症状・疾病等と留意点</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する(通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</p> <p>老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</p> <p>高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	人間の成長・発達	発達の定義として、生涯発達、寿命、年齢のとらえ方、活動余命等を理解させる 発達の段階についてエリクソンの発達段階を踏まえた高齢期の発達の段階を理解させる 発達課題について、ライフステージごとの発達課題、高齢者・障害者と地域社会・生活問題等を理解させる	
2	5月、11月	老年期の発達・成熟と心理	老年期の発達課題として、老いの自覚、老いの受容、老性兆候を捉える等について理解させる 老化とそれに伴う支援の留意点について、身体機能の低下、身体疾患の増加の視点から理解させる 役割の変化とそれに伴う支援の留意点について、役割の変化と獲得、生活形態の変化、範囲の縮小等を理解させる 障害とそれに伴う支援の留意点について、障害者と地域の変動に伴い人間関係等を理解させる 喪失とそれに伴う支援の留意点について、高齢期の喪失体験、高齢期の葛藤を理解させる 経済的な不安とそれに伴う支援の留意点について、社会的役割の喪失と経済観念等を理解させる うつとそれに伴う支援の留意点について、高齢期とうつ病、高齢期とストレス等を理解させる	
3	5月、11月	高齢者に多い症状・疾病と留意点	高齢者に多い症状について、生活習慣病、身体、循環器、呼吸器、消化器等を理解させる 高齢者に多い疾病について、代謝・内分泌系、脳神経系、運動器系、こころの病気等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]	
一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 6巻			(試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅰ		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 10時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>認知症ケアの理念</u></p> <p><u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u></p> <p><u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u></p>				
<p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p>				
<p>授業終了時の達成課題</p> <p>認知症ケアの取組を踏まえ今日的な認知症ケアの理念を理解している。</p> <p>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	認知症ケアの理念	認知症ケアの理念として、認知症がどのような病気なのか、失敗体験の回避等を理解させる	
2	5月、11月	認知症による生活障害、心理・行動の特徴	認知症ケアへの取り組みとして、認知症介護の基本的な考え方、進行に合わせた介護等を理解させる	
3	5月、11月	認知症の人との関わり・支援の基本	近年の認知症ケアについて、認知症ケアの歴史、パーソンセンタードケア、疾患別ケア等を理解させる	
			認知症による生活上の障害について、心理的・身体的特徴、見当識・判断力・実行機能の障害等を理解させる	
			認知症による心理・行動の特徴について、中核症状、BPSD、日常生活のとらえ方等を理解させる	
			認知症の人やその家族との関わりについて、生活リズム、礼儀、不適切な関わり方等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 6巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題20問のうち正答数14問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 通信学習	授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月、11月
必修・選択 必修		

授業の目的・ねらい

医学的側面から見た認知症の理解
認知症の人や家族への支援の実際

授業内容

テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）

授業終了時の達成課題

代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。
 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。
 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法
1	5月、11月	医学的側面から見た認知症	認知症の原因疾患について、認知症の種類と原因、アルツハイマー型、血管性、レビー小体認知症等を理解させる 認知症の症状について、中核症状、行動・心理症状、もの忘れ、見当識障害等を理解させる 認知症の障害について、理解力・判断力・計算力・見当識・実行機能、個人に合わせた介護等を理解させる 認知症の進行による変化について、認知症と間違われやすい症状、アルツハイマー、心理ステップ等を理解させる 認知症の検査方法と治療法について、認知機能検査、行動評価尺度等を理解させる
2	4.5月上旬 10.11月上旬	認知症の人や家族への支援	認知症の人のアセスメントについて、身体的・精神的・日常生活動作、家族関係、地域場面でのサポート体制等を理解させる 認知症の人への地域サポート体制について、インフォーマルサポート、チームアプローチ、認知症予防の考え方等を理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 6巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I		授業の種類 通信学習		授業担当者 市川好行・寺島貴秋 細谷真由美・板垣瞳・鳥海純一
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 10時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>障害者福祉の理念</u></p> <p><u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u></p> <p><u>障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>障害 (身体・知的・精神・発達障害・難病等) による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	障害者福祉の理念	障害者福祉の理念について、ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン等を理解させる	
2	5月、11月	障害による生活障害、心理、行動の特徴	障害の概念変遷、障害者福祉の歴史について、障害の基本的考え方、ICIDH、ICF等を理解させる 身体障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、視覚・聴覚・言語障害等の生活上の障害を理解させる 知的障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、ダウン症、ノーマライゼーション、重複障害等を理解させる 精神障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、行動障害の特徴、重複障害等について理解させる 発達障害者の心理・行動の特徴と生活上の障害について、生活上の困難、行動特徴等を理解させる	
3	5月、11月	障害児者や家族への関わり・支援の基本	難病者等の心理・行動の特徴と生活上の障害について、その種類、主な症状、介助方法等を理解させる 障害児者と家族との関わりと支援について、信頼関係の構築、状況の理解、レスパイトケア等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 7巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題20問のうち正答数14問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 通信学習		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>医学的側面から見た障害の理解</u></p> <p><u>障害児・者への支援の実際</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	医学的側面から見た障害の理解	<p>身体障害の原因・特性・機能の変化について、肢体不自由の定義、障害者程度等級、状態像、原因等を理解させる</p> <p>視覚障害の原因・特徴・機能の変化について、障害を引き起こす疾患、視覚障害の定義・等級等を理解させる</p> <p>言語・聴覚障害の原因・特徴・機能の変化について、その定義、障害等級、心理等を理解させる</p> <p>内部障害の原因・特性・機能の変化について、心臓・腎臓・呼吸器・膀胱・肝臓・腸等の疾患を理解させる</p> <p>高次脳機能障害の原因・特性・機能の変化について、その原因、大脳新皮質、失行・失認・失語等を理解させる</p> <p>知的障害の原因・特性・機能の変化として知的障害の定義、出生前診断、重複障害等を理解させる</p> <p>精神障害の原因・特性・機能の変化について、精神障害の定義、代表的な疾患等を理解させる</p> <p>発達障害の原因・特性・機能の変化について、自閉症、アスペルガー症候群、特徴等を理解させる</p> <p>難病の原因・特性・機能の変化について、主だった難病の特徴・症状、難病対策、在宅生活等を理解させる</p>	
5	5月、11月	身体障害者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントと支援	<p>身体障害者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントと支援について、日常生活自立度、緊急時対応、支え手等を理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画（介護過程の理解）について本人の意向、到達目標、個別支援計画等を理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別支援計画（個別支援計画作成の意義）について、利用者からの視点で捉えるということを理解させる</p> <p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画（個別支援計画の作成）について、サービスの到達目標、緊急性、達成度、評価等を理解させる</p>	

			<p>障害者介護に関する介護過程の展開と個別援助計画（モニタリング）について、準備期間、期間設定と手続き等を理解させる</p> <p>障害者総合支援における計画相談支援及び地域相談支援について障害者の相談支援体制、計画相談支援、地域相談支援等を理解させる</p> <p>サービス等利用計画様式の記入例について、フェイスシートサービス利用計画、申請者の現状、モニタリング報告書等について理解させる</p> <p>地域における障害者サポート体制について、訪問系、日中活動系、居住系等について理解させる</p> <p style="text-align: right;">中川好・寺島寛</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>一般財団法人 長寿社会開発センター 発行</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 7巻</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする</p>

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅠ		授業の種類 通信学習		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 20時間	時期 5月、11月	必修・選択 必修	
授業の目的・ねらい 介護に関係した身体のしくみの基礎的な理解 (移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)				
授業内容 テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)				
授業終了時の達成課題 介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	5月、11月	介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解	移動に関する身体の構造と機能について、身体のメカニズム、関節と可動域、体位、杖、歩行器、車いす等を理解させる 移乗に関する身体の構造と機能について、身体のメカニズム、関節と可動域、自立、求められる動作等を理解させる 食事に関する身体の構造と機能について、食べるという行為・意味、栄養素、食欲、咀嚼・嚥下等を理解させる 入浴に関する身体の構造と機能について、身体のメカニズム、関節と可動域、バイタル、機能向上・低下等を理解させる 清拭に関する身体の構造と機能について、皮膚疾患、皮膚の構造、加齢による身体機能の低下等を理解させる 排泄に関する身体の構造と機能について、排便・排尿の生理・しくみ、機能低下、正常な内臓機能等を理解させる 着脱に関する身体の構造と機能について、体温の保持と生命、生地、保温・冷感、身だしなみ等を理解させる 整容に関する身体の構造と機能について、感覚器、整髪・洗顔、耳・眼・鼻の清潔、爪切り等を理解させる 口腔ケアに関する身体の構造と機能について、口腔の構造と機能、唾液の役割、気道と食道、義歯、誤嚥性肺炎等を理解させる 睡眠に関する身体の構造と機能について、睡眠の意味、睡眠の周期、不眠と原因、認知症と睡眠問題等を理解させる	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 8巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 選択式問題40問のうち正答数28問以上で合格とする	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 通信学習		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 1回	時間数 (単位数) 60時間	時期 6月、12月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>人間の心理</u></p> <p><u>人体の構造と機能</u></p> <p>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点</p> <p>移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護</p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する（通信）</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ポディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。</p> <p>身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1	6月、12月	人間の心理	人間の欲求について、基本的欲求、生理的欲求、社会的動機、情動と感情、感情と情緒等を理解させる	
	6月、12月	人体の構造と機能	人間の学習と記憶について、学習と思考、記憶と知能、記憶のプロセス、知能テスト、パーソナリティ等を理解させる	
	6月、12月	身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント、観察のポイント、介護・連携等	生命の維持・恒常について、生命の営みと終わり、身体の名称、臓器の名称と位置、恒常性等について理解させる	
			人体の部位について、骨格系、関節、筋系、神経系、感覚器系等を理解させる	
			骨格について、骨の構造、骨の動き、骨の名称、骨の成長と変化等を理解させる	
			関節について、関節の動き、関節の部位と関節の動き、関節の可動域等を理解させる	
			筋肉について、横紋筋、平滑筋、筋肉の名称、骨と関節と筋等を理解させる	
			神経について、大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄・脳神経・脊髄神経・自律神経等を理解させる	
			ポディメカニクスの理解について、重心、支持基底面、テコの原理、大きな筋群等を理解させる	
			人体の構造と機能について、内臓器官（呼吸器系・循環器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌・免疫系）等を理解させる	
			移動時の利用者の身体・心・認知機能から総合的にアセスメントについて、インタビュー時に収集すべき情報、留意すべき点、利用者の心理等を理解させる	
			移動時の利用者の身体・心・認知機能の状態から適切な介護について、身体状況を加味し考えなければならない点、留意点、リスク等を理解させる	
			移動時の利用者の身体・心・認知機能の状態からの適切な観察のポイントについて、アセスメントが正しく機能しているか、症状の変化に伴う介助方法の変化等を理解させる	
			移動時の利用者の身体・心・認知機能の状態からモニタリングをし、多職種連携を行うことについて、観察から得られた情報を的確に反映させる、医師・看護職員・関係職種との関わり等を理解させる	

終末期時の利用者の身体・心・認知機能から総合的にアセスメントについて、インテーク時に収集すべき情報、留意すべき点、利用者の心理等を理解させる

終末期時の利用者の身体・心・認知機能の状態から適切な介護について、身体状況を加味し考えなければならない点、留意点、リスク等を理解させる

終末期時の利用者の身体・心・認知機能から観察・モニタリングし、多職種との連携について、観察から得られた情報を的確に反映させる、医師・看護職員・関係職種との関わり等を理解させる

[使用テキスト・参考文献]

一般財団法人 長寿社会開発センター 発行
介護福祉士養成 実務者研修テキスト 8巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

選択式問題50問のうち正答数35問以上で合格とする

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア		授業の種類 通信・スクーリング (演習)		授業担当者 天田扶美奈
授業の回数 2回	時間数 (単位数) 50時間(通信) 16時間(演習2日間)	時期 6.9月、12.3月	必修・選択 必修	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p><u>医療的ケア実践の基礎</u></p> <p><u>喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)</u></p> <p><u>経管栄養 (基礎的知識・実施手順)</u></p> <p><u>演習</u></p> <p>授業内容</p> <p>テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する (通信)</p> <p>演習については、授業の目的及びテキストに沿った講義・演習を行う</p> <p>授業終了時の達成課題</p> <p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p>				
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】				
コマ数	日程	学習テーマ	学習内容・方法	
1～3 4～5 6～7 13 8～10 11～12	6月、12月 6月、12月 6月、12月 9月、3月	医療的ケア実践の基礎 喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順) 経管栄養 (基礎的知識・実施手順) 演習	人間と社会 清潔保持と感染予防 健康状態の把握 安全な療養生活 保健医療制度とチーム医療 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説 口腔内の喀痰吸引 鼻腔内の喀痰吸引 気管カニューレ内部の喀痰吸引 救急蘇生法 胃ろう・腸ろうによる経管栄養 経鼻経管栄養	
[使用テキスト・参考文献] 一般財団法人 長寿社会開発センター 発行 介護福祉士養成 実務者研修テキスト 9巻			[単位認定の方法及び基準] 選択式問題30問のうち正答数27問以上で合格とする 救急蘇生法は1回以上実施することとする。 試験 救急蘇生法除く各行為5回のうち1回以上完全に手順を終えれば合格とする。	